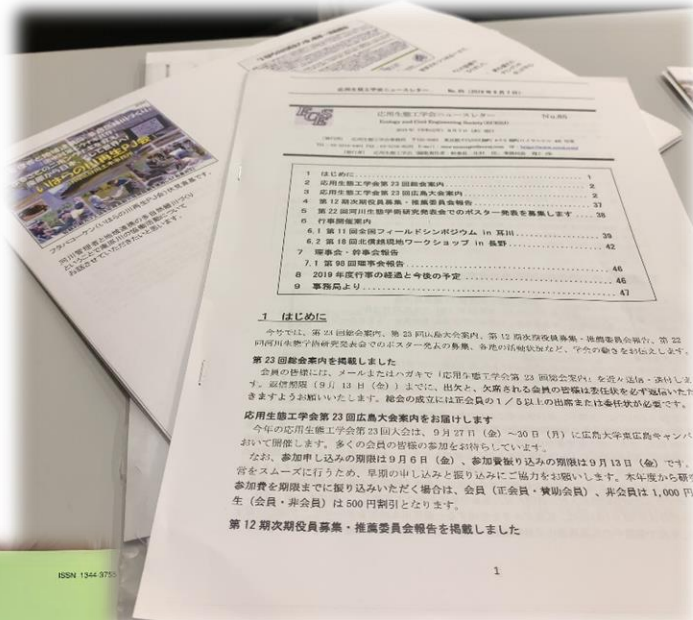


# 応用生態工学会自由集会 発表

応用生態工学会第23回広島大会が、9/27~9/30に広島大学東広島キャンパスで開催。自由集会「ウナギの保全と河川・水辺の自然再生の現状と課題」に参加。「ウナギの棲み処づくり 今は石倉カゴだけ2 - 静岡 河川管理者の実行」として静岡土木との協働活動である庵原川PJ活動を中心に発表。



## B. 「ウナギの保全と河川・水辺の自然再生の現状と課題」

【企画】久米 学・山下 洋 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

【日時・会場】9月27日(金)9:30~11:30 C316 講義室

【内容】ニホンウナギは近年、急激に減少し絶滅の危機に瀕している。本種は、水産業における重要な魚種であり、かつ河川生態系の頂点に位置する魚種であることから、河川生態系の保全における鍵種・シンボル種の地位にあると言えるだろう。これらのことはすなわち、応用生態工学の観点から考えると、ウナギあるいはその生息場所の保全を目的とした水辺の自然再生は、ホットトピックスとなり得るはずである。しかしながら、河川生活期のウナギに対する保全策については、その効果に科学的根拠がなく、極めて成長が悪い劣等生の養鰻を放流する事業が行

われるのみである。これは、河川生活期におけるウナギの極めて基礎的な生態学的知見である生息場所利用についてすらも、未解明であることに依拠するものと思われる。そこで本集会では、まず河川生活期のウナギの生態全般について脇谷氏より紹介し、次にウナギの河川における生息環境について異なる河川スケールの研究を松重氏と久米氏より紹介し、次に近年モニタリングツールとして注目されている石倉カゴを用いた実践活動を伏見氏より紹介する。これらを踏まえて総合討論において、ウナギの保全に有効な水辺の自然再生を目指す上での現状の問題点と今後の方向性について、より具体的に議論を深めたい。

### 【プログラム】

- 趣旨説明 森里海連環学とニホンウナギ研究  
山下 洋 (京都大学フィールド科学教育研究センター)
- 講演
  - ウナギの河川生態  
脇谷 量二郎 (中央大学研究開発機構)
  - 川ウナギの分布と生息環境：堰の影響と微生物環境に着目して  
久米 学 (京都大学フィールド科学教育研究センター)
  - ウナギの生息地利用：リーチスケールとユニットスケールに着目して  
松重 一輝 (九州大学大学院農学研究科)
  - ウナギの棲み処づくり 今は石倉カゴだけ-1 水産庁が動いた  
柵瀬 信夫 (鹿島建設)
  - ウナギの棲み処づくり 今は石倉カゴだけ-2 静岡 河川管理者の実行  
伏見 直基 (フタバコーケン)
- 総合討論  
コメンテーター：木村 伸吾 (東京大学大気海洋研究所)・鬼倉 徳雄 (九州大学水産実験所)

